

小柳正治 JEC 連合会長 新年あいさつ

優しく、力強く ゆとり・豊かさが備わった 社会をめざして



新年あけましておめでとう御座います。組合員の皆様には、ご家族ともども輝かしい新年をお迎えのことと存じます。

また、年末・年始に掛かりませず勤務の組合員の皆さま、大変ご苦労さまです。

さて、JEC連合は、単組・組合員皆様のご協力により5年が経過し、産業別労働組合としての基盤が確立され、魅力ある力強い産別をめざし、さらなるステップアップを図るため現在「中期ビジョン」の策定に取り組んでいます。

国内外の状況は、経済・社会のグローバル化の進展に伴う光と影が浮き彫りとなり、格差の拡大を引き起こしています。

グローバル化は金融の肥大化を招き、モノを作らない行き過ぎたマネーゲームにより、原油先物やM&A・ヘッジファンドへ奔流し、投機的要素の拡大は、今後の世界経済の持続的発展に大きな懸念材料となっています。

日本においても内需主導の成長への移行が叫ばれる中、景気も浮上しているかに見えますが、実態は個人所得増なき景気拡大であり、「失われた10年」での社会構造の変化以降、分配の格差が拡大する中で労働が商品化され、「ワーキング・プア」問題も発生してきました。

今、国家・国民、政治・経済・社会が劣化してきていると言われていきます。

新たな局面を切り開くためにも、これからは「金融主導の売りぬく資本主義」から「モノを作り公正に流通する、育てる資本主義」、「格差の資本主義」から「中間層を多く抱える公正な資本主義」へと転換しなければなりません。

「自分にとって大切なものは何ですか」、「自分の望む生活とはどのようなものですか」、今一人ひとりが自らの望む生き方とライフスタイルを自覚し、家族・職場・企業・地域を含む周囲との調和を図りつつ、自らのライフスタイルを両立し得るワークスタイルを人生全般にわたって築くこと、「ワーク・ライフ・バランス」が重要なテーマです。長時間労働やストレスによる心身への負担は、本人は元より家族や企業においてもマイナスの結果を引き起こします。

そのためにも労働組合は、家族・家庭を大事に、人・組合員（従業員）を大切に作る企業・職場環境を作らなければなりません、そのことが、「人材」から「人財」への労使共通の課題ではないかと考えます。

人の幸福感は充実感ではないかと考えます。一定の生活条件を満たした上で、社会に役立つ行動を取ることで、そこから多くのコミュニケーションが生まれ、自らも含め周囲が充実感を感じる。そこには優しさと力強さが生まれ、人の心に「ゆとり・豊かさ」が備わってくる - JEC連合はそのような社会をめざし、加盟組合皆様のご協力を頂きながら精一杯取り組み、その役割を果たしていきたいと考えています。

新しい年がJEC連合の組合員とご家族の皆様にとって幸多き年でありますよう、心からご祈念申し上げて、年頭のごあいさつとさせていただきます。